

「ENEOSラボ」が新たに共同研究拠点を開所 ～低炭素社会の構築に向けて～

記者各位

新日本石油株式会社（以下、「新日石」。社長：西尾 進路）と東京大学先端科学技術研究センター（以下「先端研」。所長：宮野健次郎）は、先端研内に設置した「ENEOSラボ」において、新エネルギー技術に関する共同研究を行っておりますが、このたび研究開発体制の更なる強化に向け、新たに共同研究拠点を開所しましたのでお知らせいたします。

新日石と先端研は2005年10月より、「エネルギーと環境が調和した社会の実現」をテーマに包括的な組織連携活動を開始し、次世代有機系太陽電池、高出力二次電池用材料、バイオマス等の分野で共同研究を行うとともに、新日石から先端研研究室への特任准教授の派遣等、多様な人材交流も行ってまいりました。

2008年4月には、この連携活動を強化し、新日石研究員が常駐して共同研究を行う「ENEOSラボ」を設置いたしました。

現在は、新日石の研究員3名が常駐し、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）から受託した「ポストシリコン高効率太陽電池」の研究を行っており、また「高密度・低コスト蓄電材料」に関する研究を開始することも決定しております。

今回の新たな共同研究拠点の開所を足がかりに「ENEOSラボ」では、将来的に新日石の研究員を10名程度まで拡充する等、研究体制のさらなる強化・拡大を図り、最終的には「クールアース50」に掲げられた2050年の温室効果ガス半減に向けて、「発電効率40%・コスト火力発電並みを目標とした超高効率太陽電池」と「革新的な蓄電池」の実現を目指します。

新日石と先端研は今後とも、「ENEOSラボ」を通じ低炭素社会実現に貢献する新エネルギーの革新的な基盤技術の創製とその成果の社会還元、人材の育成を目指してまいります。

「ENEOSラボ」の新たな共同研究拠点 概要

- (1)所在地： 東京大学駒場IIキャンパス内 56号館 3～5階
- (2)面積： 約500m²
- (3)研究体制：新日石の常勤研究員3名と先端研の複数の研究室との共同研究（2009年2月時点）

以上



ENEOSラボ開所式（2月5日実施）

左より：東京大学先端科学技術研究センター所長・宮野健次郎、東京大学理事副学長・濱田純一、
新日本石油株式会社代表取締役副社長・松村幾敏、政策研究大学院大学教授・黒川 清